



主な内容

特集——故 小川 彰 先生を偲ぶ

令和5（2023）年度決算

令和6（2024）年度予算

トピックス——ふれあい看護体験が行われました

募金状況報告

フリーページ——すこやかスポット医学講座No.23

「あなたの唾液は大丈夫？」

表紙写真：故 小川 彰 先生の学校法人岩手医科大学葬祭壇に飾られた遺影（関連記事P.2-5）

特集

岩手医科大学
名誉学長

故小川彰 儀 学校法人岩手医科大学葬



故 小川 彰 先生を偲ぶ

令和6年3月3日に逝去された本法人名誉理事長・名誉学長の故小川彰先生の学校法人岩手医科大学葬が令和6年6月8日(土)にトーサイクラシックホール岩手においてしめやかに営まれました。本号では、故小川彰先生のご遺徳を偲び、追悼特集を掲載いたします。

略歴

昭和24年3月 宮城県に生まれる
昭和49年3月 岩手医科大学医学部卒業
昭和49年5月 東北大学医学部脳疾患研究施設脳神経外科臨床研修医
昭和51年6月 東北大学医学部脳疾患研究施設脳神経外科医員
昭和53年12月 国立国府台病院厚生技官
昭和57年2月 国立仙台病院厚生技官
昭和59年4月 東北大学医学部脳疾患研究施設脳神経外科部門講師
昭和60年10月 国立仙台病院第二脳神経外科医長
昭和61年6月 国立仙台病院臨床研究部脳神経研究室長
昭和63年5月 東北大学医学部脳疾患研究施設脳神経外科部門助教授
東北大学医学部附属病院脳神経外科副科長

平成3年3月 米国バロー神経研究所(アリゾナ大学)留学
平成4年10月 岩手医科大学医学部脳神経外科学講座教授
平成15年4月 岩手医科大学医学部長
学校法人岩手医科大学理事、評議員
平成20年1月 岩手医科大学第10代学長
平成24年2月 学校法人岩手医科大学第8代理事長
平成26年4月 岩手医科大学名誉教授
平成28年8月 岩手医科大学名誉学長
令和6年3月3日 没 享年76
令和6年5月 学校法人岩手医科大学名誉理事長

受章・表彰

平成2年12月 中村隆賞
平成19年2月 美原賞
平成20年10月 齋藤眞賞社会賞
令和元年11月 岩手日報文化賞

令和3年11月 日本医師会優功賞
令和6年3月 従四位、旭日重光章
令和6年5月 県勢功労者

学外活動等

一般社団法人日本私立医科大学協会会長
公益財団法人岩手県対がん協会理事長
岩手県ユニセフ協会会長
一般社団法人岩手県医師会副会長
一般社団法人全国医学部長病院長会議会長
一般社団法人日本脳神経超音波学会理事長

一般社団法人日本脳卒中学会理事長
公益社団法人日本アイソトープ協会理事
一般社団法人日本脳循環代謝学会理事
一般社団法人日本脳ドック学会理事
日本医学会幹事
日本学術会議連携会員 など

学校法人岩手医科大学葬

本法人名誉理事長・名誉学長 故 小川 彰 先生の学校法人岩手医科大学葬が6月8日(土)10時30分からトーサイクラシックホール岩手(岩手県民会館)においてしめやかに営まれ、教職員をはじめ学内外から815名が参列し、最後のお別れをしました。葬儀会場へのご臨席が叶わない方に向けては、インターネットライブ配信が行われました(368名視聴)。

法人葬は、葬儀副委員長の小笠原学長による開式の辞で始まり、黙祷の後、葬儀委員長の祖父江理事長が追悼の辞を述べました。続いて、達増拓也岩手県知事、炭山嘉伸日本私立医科大学協会会長・東邦大学理事長、吉本高志東北大学第19代総長、本間博岩手県医師会長、赤坂俊英岩手医科大学圭陵会長から弔辞が捧げられ、多数の弔電が紹介されました。次に39名による指名献花が行われ、祖父江葬儀委員長の挨拶、遺族代表謝辞がありました。正面祭壇には大きな遺影が飾られ、故人を偲んで参列者による献花が行われ閉会となりました。



受付にて芳名カードを記帳する参列者



トーサイクラシックホール岩手大ホールで行われた法人葬



葬儀委員長祖父江理事長の追悼の辞



参列者による献花

お別れの会

法人葬終了後に行われた故 小川 彰 先生を偲ぶお別れの会は、13時から盛岡グランドホテルにおいて開かれ、237名の方々が出席しました。お別れの会は、葬儀委員長の祖父江理事長による開会の挨拶で始まり、続いて寺野彰日本医学教育評価機構理事長より献杯が行われました。献杯後は、高橋昌造矢巾町長、小笠原邦昭岩手医科大学医学部脳神経外科学講座同門会九樹会長、西島光茂西島産婦人科医院長、山本正徳宮古市長から小川先生との思い出話などについてスピーチがあり、出席者全員で偉大な足跡を残された故人を偲びました。



盛岡グランドホテルで行われたお別れの会



平成4年10月6日
岩手医大での初手術に備え手術機器を点検



平成4年10月7日
岩手医大での初手術



平成23年3月
東日本大震災津波後、被災地山田町を視察



平成24年8月1日
盛岡さんさ踊りパレードへの参加



平成25年3月6日
WHO(世界保健機関)主催
「災害後の保健セクター復興国際会議
(岩手医大で開催)」で議長を務める



平成26年8月14日
中尊寺薪能へ薪奉行として参加



平成28年6月26日
安比高原でのロケット打上げ前に記念撮影



平成29年3月13日
附属病院新築工事起工式での鍬入れ



平成29年4月20日
岩手医科大学創立120周年記念式典での記念講演
(小川先生の記念講演の様子はYouTubeよりご覧ください)



【YouTube QRコード】



令和元年9月21日
新附属病院への入院患者搬送を指揮



令和4年9月23日
矢巾町圃場での病院食使用米の稲刈り

学校法人岩手医科大学

〈令和5（2023）年度〉

決算

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症に移行し、社会が様々な抑制の緩和を行い経済活動が活発化する一方、変容する世界情勢に起因するエネルギー価格の高騰や物価上昇等が、本学の財務状況に大きな影響を及ぼしました。このような厳しい状況下において、本学は、教育・研究・医療の質向上を目指し、各事業を推進しました。

また、補助金や研究費等の外部資金を積極的に獲得したほ

か、矢巾附属病院と内丸メディカルセンターそれぞれの病院機能を最大限に活かし、経営基盤の更なる強化に努めました。

当期事業活動収支決算は、事業活動収入553億7,717万円から事業活動支出603億5,589万円を差し引いた△49億7,872万円が基本金組入前当年度収支差額となり、矢巾附属病院関連等の基本金組入額△22億4,317万円を計上したことにより、当年度収支差額は△72億2,189万円となりました。

1 事業活動収支

（1）事業活動収入

事業活動収入の合計額553億7,717万円は、前年度比5億8,968万円（1.1%）増加、予算比では5,816万円（0.1%）下回りました。

①学生生徒等納付金71億5,295万円は、前年度比6,258万円（0.9%）減少しました。主な減少要因は、学生数の減少によるものです。

②医療収入414億700万円は、前年度比13億3,658万円（3.3%）増加しました。附属病院（医科）と内丸メディカルセンター（医科）を合計した医科部門の医療収入は、前年度比13億7,327万円（3.5%）の増加、附属病院（歯科）と内丸メディカルセンター（歯科）を合計した歯科部門の医療収入は、前年度比3,670万円（3.4%）の減少となりました。

③補助金合計額は36億8,475万円で、前年度比6億3,109万円（14.6%）減少しました。

教育活動収入の経常費等補助金35億8,907万円は、前年度比4億7,833万円（11.8%）減少しました。また、国庫補助金として私立大学等経常費補助金15億2,545万円、医療研究開発推進事業費補助金（いわて東北メディカル・メガバンク機構）6億6,336万円等、地方公共団体補助金としてドクターヘリ運航事業費補助金3億202万円、高度救命救急センター運営費補助金2億5,619万円等がありました。

特別収入の施設設備補助金9,568万円は、前年度比1億5,276万円（61.5%）減少し、地方公共団体補助金として高度救命救急センター設備整備費補助金5,000万円、死亡時画像診断システム等設備整備事業費補助金1,447万円等がありました。

（2）事業活動支出

事業活動支出の合計額603億5,589万円は、前年度比17億3,470万円（3.0%）増加、予算比では18億2,829万円（3.1%）上回りました。

①人件費231億9,169万円は、前年度比2億5,571万円（1.1%）増加しました。

給与、賞与及び所定福利費の合計217億6,878万円は、前年度比1億9,663万円（0.9%）増加し、退職金と退職給与引

当金繰入額の合計13億6,975万円は、前年度比6,252万円（4.8%）増加しました。

②医療経費195億6,159万円は、前年度比10億5,700万円（5.7%）増加しました。

医薬品費は、前年度比11億6,404万円（11.8%）の増加、医療材料費は1億1,964万円（1.4%）の減少、給食材料費は1,260万円（6.0%）増加しました。

医療収入に対する医療経費割合は47.2%となり、前年度より1.0%増加しました。

③消耗品費8億9,519万円は、前年度比9,551万円（11.9%）増加しました。

④光熱水費は、重油料3億4,320万円、ガス料3億6,699万円、電気料9億251万円、水道料1億2,836万円の合計17億4,106万円となり、前年度比1億403万円（5.6%）減少しました。

⑤修繕費は、施設修繕費1億8,614万円、機器備品修繕費2億2,577万円、合計4億1,191万円となり、前年度比2,999万円（6.8%）減少しました。

⑥業務委託費59億9,226万円は、前年度比2億5,346万円（4.4%）増加しました。

病院別では、附属病院（医科）34億9,191万円、附属病院（歯科）929万円、内丸メディカルセンター（医科）9億663万円、内丸メディカルセンター（歯科）1億4,287万円、その他14億4,156万円です。

⑦減価償却額56億9,436万円は、前年度より8,885万円増加しました。

⑧その他の諸経費等は、27億2,016万円となりました。主な内訳は、福利費2億7,728万円（学生福利費3,251万円、職員福利費2億4,477万円）、公租公課1億8,678万円（消費税1億2,136万円、法人税・事業税2,217万円、固定資産税・都市計画税3,970万円等）です。

⑨借入金利息により、6,506万円を計上しました。

⑩資産処分差額8,261万円は、耐用年数が経過した資産未償却額の除却等です。

2 資本収支

(1) 資産の部

- ①施設関係支出 9,754 万円は、内丸メディカルセンター正面玄関自動ドア取り付け工事による 281 万円等です。
- ②設備関係支出 12 億 5,203 万円は、教育研究用機器備品 12 億 2,150 万円等です。
- ③貯蔵品残高は、年度末に棚卸を行い調査した在庫分であり、医薬品・医療材料 8 億 8,644 万円、歯科貴金属 551 万円、合計 8 億 9,195 万円です。

(2) 負債、純資産の部

- ①退職給与引当金残高は、141 億 7,408 万円です。
- ②前受金残高 14 億 2,841 万円は、令和 6 年度入学生の学生生徒等納付金等です。

- ③預り金残高 8 億 4,501 万円は、源泉所得税 5,331 万円、県市町村民税 1 億 791 万円、私学共済掛金 1 億 5,848 万円等です。
- ④基本金は 22 億 4,317 万円を組入れし、1,324 億 1,700 万円となりました。
- ⑤当年度収支差額△ 72 億 2,189 万円と、前年度繰越収支差額△ 551 億 4,529 万円を合計し、基本金取崩額 48 億円を差し引いた翌年度繰越収支差額は、△ 575 億 6,718 万円となりました。
- ⑥純資産の部合計（基本金＋繰越収支差額）は、前年度より 49 億 7,872 万円減少し、748 億 4,983 万円となりました。
- ⑦令和 5 年度末現在で作成する財産目録純資産額（資産総額－負債総額）は、748 億 4,983 万円です。

令和5(2023)年度 事業活動収支計算書

(単位：千円)

区 分	収 入 の 部		支 出 の 部	
	科 目	金 額	科 目	金 額
教育活動収支	学 生 生 徒 等 納 付 金	7,152,948	人 件 費	23,191,690
	手 数 料	176,869	医 療 経 費	19,561,587
	医 療 収 入	41,406,998	消 耗 品 費	895,191
	寄 付 金	579,150	光 熱 水 費	1,741,056
	経 常 費 等 補 助 金	3,589,069	修 繕 費	411,914
	付 随 事 業 収 入	1,260,858	業 務 委 託 費	5,992,263
	雑 収 入	883,917	減 価 償 却 額	5,694,362
教 育 活 動 外 収 支			そ の 他 の 諸 経 費 等	2,720,158
	教 育 活 動 収 入 計	55,049,809	教 育 活 動 支 出 計	60,208,221
	受 取 利 息 配 当 金	9,372	借 入 金 等 利 息	65,059
特別収支	教 育 活 動 外 収 入 計	9,372	教 育 活 動 外 支 出 計	65,059
	資 産 売 却 差 額	10,263	資 産 処 分 差 額	82,605
	そ の 他 の 特 別 収 入	307,722	そ の 他 の 特 別 支 出	0
	特 別 収 入 計	317,985	特 別 支 出 計	82,605
	事 業 活 動 収 入 合 計	55,377,166	事 業 活 動 支 出 合 計	60,355,885
基 本 金 組 入 額 合 計			△ 2,243,166	
当 年 度 収 支 差 額			△ 7,221,885	

令和5年度 資金収支計算書

(単位：千円)

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
学 生 生 徒 等 納 付 金 収 入	7,152,948	人 件 費 支 出	22,738,601
手 数 料 収 入	176,869	諸 経 費 支 出	31,236,452
寄 付 金 収 入	668,647	借 入 金 等 利 息 支 出	65,059
補 助 金 収 入	3,684,752	借 入 金 等 返 済 支 出	1,540,000
資 産 売 却 収 入	29,417	施 設 関 係 支 出	97,536
付 随 事 業 ・ 収 益 事 業 収 入	1,260,858	設 備 関 係 支 出	1,252,028
医 療 収 入	41,406,998	資 産 運 用 支 出	300,200
受 取 利 息 ・ 配 当 金 収 入	9,372	そ の 他 の 支 出	4,357,162
雑 収 入	935,324	資 金 支 出 調 整 勘 定	△ 3,497,220
前 受 金 収 入	1,428,405	翌 年 度 繰 越 支 払 資 金	11,839,786
そ の 他 の 収 入	15,274,894		
資 金 収 入 調 整 勘 定	△ 10,629,979		
前 年 度 繰 越 支 払 資 金	8,531,099		
収 入 の 部 合 計	69,929,604	支 出 の 部 合 計	69,929,604

貸借対照表 (令和6年3月31日)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固 定 資 産	88,544,271	固 定 負 債	28,669,573
有 形 固 定 資 産	83,734,987	流 動 負 債	6,978,633
特 定 資 産	4,604,398	負 債 の 部 合 計	35,648,206
そ の 他 の 固 定 資 産	204,886	純 資 産 の 部	
流 動 資 産	21,953,760	基 本 金	132,417,003
		繰 越 収 支 差 額	△ 57,567,178
		純 資 産 の 部 合 計	74,849,825
資 産 の 部 合 計	110,498,031	負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計	110,498,031

学校法人岩手医科大学

〈令和6(2024)年度〉

予 算

1 予算策定にあたって

2019年度の矢巾町への附属病院移転後、内丸メディカルセンターとの2病院体制となり、本学の新たな歴史がスタートしましたが、その一方で、翌年度以降の経営状況は連続して赤字決算となっており、事業資金の減少が続いています。

主な要因として、学生収容定員未充足に伴う学納金収入の減少、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う診療・手術制限等による医療収益の伸び悩み、増加し続ける医薬品費、さらには海外の紛争に起因するエネルギー価格の高騰や物価上昇等が挙げられ、社会情勢の著しい変化が本学の経営に大きな影響を与えてきました。

このような厳しい経営状況を乗り越え、本学を永続的かつ安定的に運営するためには、経営改善計画を速やかに策定し、実行に移すことが肝要です。特に、医療収入が事

業活動収入の約7割以上を占めていることから、附属病院と内丸メディカルセンターの運営体制や収益構造を抜本的に見直し、強固で安定した経営基盤を確立します。これにより、事業資金の確保と、附属病院移転支払資金の借入金返済を着実に遂行していきます。

2024年度予算においては、社会情勢や経済状況を注視しつつ、本学の経営状況を踏まえて事業計画を見直しながら、各事業を進めることとします。収入面では、学生確保による学納金収入や医療収入の増収に努めるほか、補助金や外部資金を積極的に獲得します。支出面では、社会の要請に応じた教育・研究・診療が円滑に遂行できるよう配慮しつつ、収入に見合う支出となるよう可能な限り圧縮した予算としました。

2 主な予算項目

2024年度事業活動収支予算(項目1～6)、資金収支予算(項目7～10)の主な項目について説明します。

収入予算は、学生生徒等納付金70億7,468万円(事業活動収入に占める割合12.4%)、医療収入432億4,770万円(同75.8%)、補助金33億7,248万円(同5.9%)を計上しました。これら3項目で事業活動収入の94.1%を占めています。その他の収入は33億9,637万円(同5.9%)を計上し、事業活動収入予算総額は570億9,123万円を計上しました。

支出予算では、人件費231億5,898万円(事業活動支出に占める割合38.1%)、医療経費(医薬品費、医療材料費、給食材料費)211億131万円(同34.7%)、教育研究用等の経費など165億2,094万円(同27.2%)を計上し、事業活動支出予算総額は607億8,123万円を計上しました。

以上に加えて、予備費2億円の支出と基本金△20億円の組入を計上したことにより、2024年度は△58億9,000万円の支出超過(赤字)を計上した予算策定となりました。

本学の財政は、事業活動収入の約75.8%を医療収入に委ねており、支出においては、人件費と医療経費で約72.8%を占めています。財政基盤の確立には引き続き医療収入の増収と医療経費の適正・効率化を念頭に入れ、教職員一人ひとりが経費全般の節減に努めていかなければなりません。

1. 学生生徒等納付金

学生生徒等納付金は、授業料、入学金、実験実習費、教育充実費、施設整備費からなっており、医学部47億8,423万円、歯学部11億9,392万円、薬学部4億8,243万円、看護学部5億4,135万円、医療専門学校7,275万円、合計70億7,468万円を計上しました。

2. 医療収入

附属病院(医科)、内丸メディカルセンター(医科)、附属病院(歯科)、内丸メディカルセンター(歯科)を合計した医療収入予算は、入院収入272億3,821万円、外来収入157億7,832万円、その他の医療収入2億3,117万円、合計432億4,770万円を計上しました。

3. 補助金

教育活動収入として、私立大学等経常費補助金16億5,172万円、その他の国庫補助金6億1,996万円、また、地方公共団体補助金は10億974万円を計上し、合計32億8,142万円を計上しました。

この他、特別収入として、施設設備補助金9,106万円を計上しました。

4. 人件費

給与・諸手当・所定福利費などの人件費は218億3,338万円、また、退職金関係では12億6,656万円を計上して、その他を合わせ人件費は合計231億5,898万円を計上しました。

5. 医療経費

附属病院全体の医療経費として、医薬品費 125 億 5,945 万円 (医療経費率 29.0%)、医療材料費 83 億 1,821 万円 (同 19.2%)、給食材料費 2 億 2,365 万円 (同 0.5%)を計上し、医療経費は合計 211 億 131 万円 (同 48.8%)を計上しました。

6. 研究費

医学部・歯学部・薬学部・看護学部の講座研究費は、講座の組織改編や本学の財政状況を勘案の上、基本額を調整し、配分額の変更を行いました。教養教育センターの講座研究費及び個人研究費にあたる特別研究費は、前年度と同額を計上しました。

7. 借入金等返済支出

市中金融機関からの借入金返済資金として、15 億 4,000 万円を計上しました。

8. 借入金等利息支出

市中金融機関からの借入金利息資金として、5,957 万円を計上しました。

9. 施設関係支出

マルチメディア教育研究棟 4 階サーバ室電源増強工事 1 億 7,776 万円など、合計 3 億円を計上しました。

10. 設備関係支出

遠隔病理診断支援システムのサーバ及び端末更新等 2,844 万円など、合計 6 億 3,191 万円を計上しました。

令和6(2024)年度 事業活動収支予算書

(単位：千円)

区分	収入の部		支出の部	
	科 目	金 額	科 目	金 額
教育活動収支	学生生徒等納付金	7,074,680	人件費	23,158,980
	手数料	166,570	医療経費	21,101,310
	医療収入	43,247,700	消耗品費	677,800
	寄付金	740,470	光熱水費	1,905,030
	経常費等補助金	3,281,420	旅費	122,750
	付随事業収入	1,407,490	修繕費	237,110
	雑収入	1,019,440	業務委託費	5,700,700
			減価償却額	5,604,540
			その他の諸経費等	2,120,110
	教育活動収入計	56,937,770	教育活動支出計	60,628,330
教育活動外収支	受取利息配当金	9,570	借入金利息	59,570
	教育活動外収入計	9,570	教育活動外支出計	59,570
特別収支	その他の特別収入	143,890	資産処分差額	93,330
	特別収入計	143,890	特別支出計	93,330
	事業活動収入合計	57,091,230	事業活動支出合計	60,781,230
予備費				200,000
基本金組入前当年度収支差額				△ 3,890,000
基本金組入額合計				△ 2,000,000
当年度収支差額				△ 5,890,000

令和6(2024)年度 資金収支予算書

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
学生生徒等納付金収入	7,074,680	人件費支出	23,183,830
手数料収入	166,570	諸経費支出	31,853,170
医療収入	43,247,700	借入金等利息支出	59,570
寄付金収入	742,670	借入金等返済支出	1,540,000
補助金収入	3,372,480	施設関係支出	300,000
付随事業・収益事業収入	1,407,490	設備関係支出	631,910
受取利息・配当金収入	9,570	資産運用支出	303,000
雑収入	1,019,440	その他の支出	4,622,970
前受金収入	1,489,010	予備費	500,000
その他の収入	10,023,880	資金支出調整勘定	△ 3,776,380
資金収入調整勘定	△ 10,679,860	翌年度繰越支払資金	10,055,560
前年度繰越支払資金	11,400,000		
収入の部合計	69,273,630	支出の部合計	69,273,630

詳細な説明・確認等を希望される方は、財務部経理課（内線 4553・4554）まで照会願います。

薬学部白衣授与式が挙行されました

5月10日（金）、大堀記念講堂において令和6年度薬学部白衣授与式が挙行されました。この式は、「実務実習」にて臨床の場に第一歩を踏み出す5学年に白衣を授与し、医療に大きく貢献できる薬剤師を目指す心構えを新たにすることを目的に行われます。

式では、河野薬学部長の挨拶に始まり、畑澤博巳岩手県薬剤師会長、工藤賢三岩手県病院薬剤師会会長から期待の言葉が送られました。続いて代表学生に白衣と名札が授与されました。学生代表の伊藤陽菜さんは「高度で良質な医療の実践と地域そして社会への貢献を目指し、勉学に励み、本学の建学の精神である「誠の人間」を目指し、誠心誠意臨みます」と力強く決意表明し、それぞれの実習先に向かいました。



代表学生宣誓

ふれあい看護体験が行われました

5月15日（水）、本学附属病院において、ふれあい看護体験が行われました。ナイチンゲールの誕生日である5月12日が「看護の日」に制定され、その日を含む日曜日から土曜日までを「看護週間」としていることから、様々な施設でふれあい看護体験が実施され、当院では平成4年から行われています。

今年は県内の中学生・高校生66名が参加し、実際のユニフォームに袖を通すと緊張した面持ちで体験に臨みました。体験終了後、生徒たちからは「看護師さんの患者さんへの接し方が素敵だった」「看護師になりたい気持ちが強くなった」といった感想が述べられました。



ベッドメイキングの体験

医療専門学校オープンキャンパスが開催されました

令和6年度岩手医科大学医療専門学校の第1回オープンキャンパスが5月25日（土）、第2回が6月22日（土）に医療専門学校上ノ橋校舎で開催されました。高校生や保護者等多くの方々が来校され、総勢54名（第1回21人、第2回33人）が参加しました。

当日は、歯科衛生士の職業紹介や体験実習、在学生とのフリートーク等、多くの企画が用意され、好評を博しました。

今後のオープンキャンパス開催予定		
第3回	第4回	第5回
7月28日（日）	9月7日（土）	10月5日（土）

※いずれも10時から12時



シーラント体験

医療安全功労部署・院内感染対策功労部署の表彰式が挙行されました

6月5日（水）、附属病院10階大会議室において、令和5年度医療安全・院内感染対策功労部署の表彰式が行われました。医療安全功労部署4部署、院内感染対策功労部署2部署に対し、小笠原病院長から表彰状が授与されました。

■医療安全功労部署

- 静脈血栓塞栓症予防対策WG（代表：高橋 祐司 WG長）
- コードイエローチーム（代表：熊谷 基 チーム長）
- 手術部（代表：堀間 美佳 看護師）
- 子どものこころ病棟・精神科病棟（代表：辛 尚彦 看護師長）

■院内感染対策功労部署

- 患者サポートセンター（代表：細川 幸子 看護師長）
- 血液浄化療法部（代表：岩泉 康子 看護師長）



長島感染制御部長、小笠原病院長、肥田医療安全管理部長と受賞代表者

潮風トレイルウォークにてがんセンター PR 活動が行われました

6月9日（日）、宮古市で開催された「みちのく潮風トレイルウォーク」において、がんセンターのPR活動が行われました。

当日は、がんセンターのリーフレットや、がん患者・家族サロンで配布しているタオル帽子等の展示スペースが設けられ、本学教職員4名がイベント来場者600名に、がんセンターの活動内容などについてPRを行いました。

がんセンター事務局の担当者からは、「本学附属病院は、岩手県唯一の都道府県がん診療連携拠点病院に指定されており、岩手県民に対し、がんに関する正しい知識の情報提供を担う立場にある。がんセンターでは、今後も県内広く啓蒙活動を進めたいと考えている」との声がありました。



がんセンター関連グッズを配る職員ら

解剖体慰霊祭が行われました

6月22日（土）、大堀記念講堂において、第87回解剖体慰霊祭がしめやかに執り行われ、小笠原学長をはじめとする本学教職員と学生、ご遺族が参列しました。

慰霊祭では82霊（正常解剖55霊、病理解剖21霊、実践的手術手技向上研修6霊）の御霊に対する黙祷に続き、小笠原学長から祭詞、学生を代表して歯学部3年飯淵友理さんから慰霊のことばが捧げられました。

式終了後、参列者全員による献花が行われ、ご献体された多くの方々へ深い感謝の意を表すると共にご冥福をお祈りしました。



慰霊のことばを捧げる飯淵さん

看護学部宣誓式が挙行されました

6月26日（水）、大堀記念講堂において、看護学部宣誓式が挙行されました。看護学部第3学年89名が今年8月から来年6月まで長期の臨地実習（領域別実習）を行うにあたり、看護職者を目指す者としての誓いを立てることを目的に行われます。

式では、遠藤看護学部長、佐藤看護部長から学生一人ひとりへロウソクの灯が授与され壇上に整列し、学生全員による看護の道を志す宣誓が行われました。

出席した教職員及び保護者は新たな決意を胸に歩み始めた89名の門出を大きな拍手で祝福しました。



壇上に整列する学生ら

小児病棟に入院している子どもたちへプラネタリウムの上映会が行われました

6月28日（金）、附属病院10階研修室において、いわてこどもホスピス設立準備委員会が主催する星つむぎの村『病院がプラネタリウムプロジェクト』が行われ、小児科病棟に長期入院している患者さんとそのご家族がプラネタリウムを鑑賞しました。本物の星空を見ることで、リフレッシュや心のケアに繋げることを目的に行われ、当日は直径4mのエアドーム内で約20名が鑑賞しました。鑑賞した子どもたちは興奮冷めやらず満面の笑みを浮かべ、その様子を見たご家族の目には涙がありました。参加者の心に残るとても有意義な時間になったようでした。



プラネタリウムエアドーム内で鑑賞する参加者

耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座の志賀 清人 教授が 耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会において耳鼻咽喉科教育・育成功労賞を受賞しました



この度、第125回耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会で教育・育成功労賞（第2位）をいただきました。この賞は該当年度で耳鼻咽喉科頭頸部外科専攻医を選んだ研修医が多かった大学（出身校）に贈られるものです。岩手医大からは6名がこの春新たに耳鼻咽喉科頭頸部外科専攻医として研修を始めています。これは本学耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座に関わる教員全員に対する栄誉であり、在学中に耳鼻咽喉科頭頸部外科に興味を持たせることができたことを意味しますが、少し複雑な気持ちもあります。本年だけではなく、過去数年間を見ても本学卒業後に耳鼻咽喉科頭頸部外科医を選んだ研修医は多数（上位3校に入る）いることがわかっていますが、本学にはそのうちの一部しか残っていません。岩手医大の学生さんの出目が全国にわたっており、医家のご子息・ご息女が多いなどの事情があるとは思いますが、今後も本学耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座の魅力をアピールし入局者を増やしていきたいと切に願っております。

（文責：耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座 教授 志賀 清人）

日本歯科理工学会において医療工学講座の澤田 智史 准教授が学術賞、 医療工学講座の畑中 昭彦 研究員が論文賞、 歯科保存学講座う蝕治療学分野の相上 雄亮 助教が研究奨励賞及び企業賞、 口腔保健育成学講座歯科矯正学分野の櫻井 直人 大学院生が企業賞を受賞しました

第82回日本歯科理工学会学術講演会で4名が5つの賞を受賞しました。



澤田准教授、櫻井大学院生、相上助教、畑中研究員、武本教授

- 1) 医療工学講座の澤田准教授は日本歯科理工学会で顕著な功績を挙げ、若手研究者の育成に貢献している研究者に贈られる学術賞を受賞しました。澤田准教授は、大学院時から補綴歯科領域で使用する材料に関する研究を進め、日本歯科理工学会学術講演会での発表に加えて、審美歯科、義歯メンテナンスの専門分野でDental Materials Senior Adviserを取得し、歯科理工学の専門的な知識を有しています。研究成果の一部は日本歯科理工学会の学術雑誌であるDental Materials Journalに投稿、掲載されています。これらの業績が評価され、今回の受賞に繋がりました。
- 2) 医療工学講座の畑中研究員は日本歯科理工学会の学術雑誌に投稿された論文の中で歯科理工学の発展に貢献でき、新規性、独創性があり、将来の発展に貢献が期待できる論文を編集委員が選考する論文賞を受賞しました。近年増加しているCAD/CAMで製作する歯冠修復材の対合歯摩耗に関する検討を行いまとめた「二体摩耗試験による同種CAD/CAM用歯冠修復材料間の摩耗挙動」（日本歯科理工学会誌 第42巻第1号、2023年1月）が優秀論文として評価され、受賞に至りました。
- 3) 歯科保存学講座う蝕治療学分野の相上助教は、学術講演会で発表した「根管充填時のEDTA処理が根管シーラーの封鎖性に及ぼす影響」が研究奨励賞と企業賞を受賞しました。齲蝕などの進行により歯髄に感染が及んだ歯根は再感染の予防を目的として、根管充填をする必要があります。本研究ではその根管充填時に行う歯面処理が封鎖性に影響する要因について発表しました。研究奨励賞は口頭発表時に審査員が研究内容、発表スキル、討論を評価して選考されました。また、企業賞は演題登録時に提出した抄録を選考委員会が審査し、優秀な研究発表が選考され、表彰されます。相上助教の大学院時の研究総括が歯科臨床に役立つ研究内容として評価されダブル受賞となりました。
- 4) 口腔保健育成学講座歯科矯正学分野の櫻井大学院生（4年）は、学術講演会で発表した「Ti-Ag-Nb-Cu 合金のフッ化物溶液での金属元素溶出挙動」が企業賞を受賞しました。口腔内で歯質強化として用いられるフッ化物はしばしば口腔内のチタン系修復物を腐食する可能性が指摘されています。本研究では新規の切削加工が可能なチタン合金に対してフッ化物含有溶液中での金属の溶出挙動を調べた研究をポスター発表しました。新規性の観点から注目度も高く、今後の発展が期待できる研究として高い評価を得ました。

いずれの研究も今後益々の発展が期待できる研究であり、それぞれの受賞を誇りに日々の診療と研究に邁進してくれるものと期待しています。

（文責：医療工学講座 教授 武本 真治）

表彰の栄誉

泌尿器科学講座の前川 滋克 講師が 日本泌尿器科学会総会において総会賞を受賞しました

この度は、第111回日本泌尿器科学会総会にて、前立腺癌：治療部門で総会賞を受賞いたしました。「前立腺癌におけるCOMT発現のエンザルタミド奏功予測バイオマーカーとしての検討」と題した発表において、COMTタンパクが前立腺癌においてアポトーシスを誘導し腫瘍抑制的に働くことをin vitroそしてin vivoで解明しました。実際の患者さんの検体を用いた免疫組織学的染色の結果、COMT発現が低い患者さんは有意に全生存が短いことがわかりました。さらに、COMT低発現の患者さんはアビラテロンの奏効期間には差がないが、エンザルタミドの奏効期間が有意に短いことを明らかにしました。以上より、COMTの発現がエンザルタミド治療のバイオマーカーとなりうると考えられました。御指導いただきました小原教授、泌尿器科学講座、病理学講座の先生方そして関係者の皆様に深く感謝申し上げます。私自身、この受賞を糧として、今後も精勤して参りたいと考えております。

(文責：泌尿器科学講座 講師 前川 滋克)



授賞式の前川講師（左）

臨床薬学講座情報薬科学分野の氏家 悠貴 助教が 2024年度若手・女性研究者奨励金の「若手研究者奨励金」に採択されました



氏家助教、西谷教授

この度、日本私立学校振興・共済事業団の2024年度若手・女性研究者奨励金の「若手研究者奨励金」に採択され、5月17日（金）に行われた奨励金贈呈式（東京）にて贈呈書を授与いただきました。本研究助成は、若手研究者の活躍促進と次世代を担う人財の育成を図ることを目的としております。2024年度の若手研究者奨励金では、北海道・東北地区で唯一の採択となりました。採択課題は「データ駆動型アプローチによる腫瘍の薬剤感受性評価モデルの開発」で、機械学習アルゴリズムを用いて数万種類におよぶ遺伝子の発現パターンを解析し、抗がん剤による治療反応性を事前に判定できるバイオマーカーの確立を目指しています。採択にあたり、ご指導頂きました西谷教授をはじめ、臨床薬学講座情報薬科学分野のスタッフの方々に深く感謝申し上げます。

(文責：臨床薬学講座情報薬科学分野 助教 氏家 悠貴)

中央臨床検査部輸血検査室の佐々木 哲也 臨床検査技師が 日本輸血・細胞治療学会学術総会において優秀演題賞を受賞しました

この度、第72回日本輸血・細胞治療学会学術総会において、演題「交換輸血を施行した抗Kg（Katagiri）による新生児溶血性疾患の一症例」を発表し、優秀演題賞を受賞しました。

新生児溶血性疾患は母児の血液型抗原が異なるために母親が同種抗体を産生し、産生された抗体が原因で新生児が溶血を起こすことで発症します。今回原因となった抗Kgは、低頻度抗原に対する抗体に属し、スクリーニング検査において検出は困難です。しかし、本症例については前医情報と当院の輸血検査結果から低頻度抗原に対する抗体であることを推定し、適切な血液製剤の選択・合成血調製を行い、交換輸血施行につなげることができたため、今回発表させて頂きました。このような貴重な発表の機会を頂き、ご評価頂けたことを心より嬉しく思います。臨床検査医学・感染症学講座の藤原准教授、内科学講座血液腫瘍内科分野の伊藤教授、小児科の先生方、血液事業関係各位、また輸血検査室の皆様がこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

(文責：中央臨床検査部輸血検査室 臨床検査技師 佐々木 哲也)



藤原准教授、佐々木臨床検査技師、伊藤教授

表彰の栄誉

医学部6年生の八谷 渉 さんが日本内科学会ことはじめ 2024 東京で優秀演題賞、 内科学講座血液腫瘍内科分野の佐藤 剛 専門研修医が指導教官賞を受賞しました

この度、医学部6学年八谷渉さんが、日本内科学会ことはじめ2024（令和6年4月13日、東京）において、演題「診断時にdouble-hit染色体異常を伴った非分泌型多発性骨髄腫の1例」を発表し、優秀演題賞を受賞しました。本例は複数の予後不良染色体異常を有する稀な非産生型骨髄腫で診断プロセスと治療戦略について考察し報告しました。また、指導した佐藤剛専攻医には指導教官賞が授与されました。今後の益々の活躍を期待しています。

（文責：内科学講座血液腫瘍内科分野 教授 伊藤 薫樹）



伊藤教授、八谷さん、佐藤専門研修医

新入職員の声

～ 講話を聞いて学んだこと～

4月1日～3日に新入職員研修としてオリエンテーション、学長・病院長講話が行われました。研修を受講しての感想と岩手医科大学職員としての抱負をご紹介します。



東9階A病棟 看護師
おがさわら あやか
小笠原 彩佳

岩手医科大学の看護職員として、目の前の患者さんにとっての「誠の看護」とは何かを考え続け、心身の病みと痛みを共有できるように努めていきたいです。その為には、患者さんやご家族からの信頼や関係性の構築が不可欠です。不安や緊張はありますが患者さんを大切に想う態度や姿勢を忘れず、患者さん中心の医療を常に心がけたいです。



薬剤部 薬剤師
しばた こうき
柴田 光喜

「将来のことをあまり考えず、毎日目標を立て、少しずつ成長していけばいい」という小笠原学長の言葉にとっても感銘を受けました。私は将来のことばかり考え、日々の成長という視点が抜け落ちていたことに今回気づくことができました。最終目標である専門薬剤師・認定薬剤師になる為には日々の成長が必要不可欠だと思います。日々の成長で得たものを患者さんに還元できる薬剤師になれるよう、日進月歩で力をつけていきます。



中央放射線部 診療放射線技師
さとう ももか
佐藤 桃果

医療安全講習では医療事故の原因は確認・観察を怠る等のノンテクニカルスキルが半数以上を占めるとのことでした。自分が判断に迷うような場面に遭遇した場合は憶測で動かず、知識や経験が足りていないということの自覚を持ち、患者さんの安全を最優先に考え、上司に確認してから行動することが必要だと感じました。患者さんの不安を和らげられるような接遇ができるよう努力していきたいです。



歯科衛生部 歯科衛生士
はたけやま ゆきこ
畑山 由紀子

岩手医科大学は127年という長い歴史を持ち、医療の進歩に伴い高度な医療を多くの方に提供する病院として発展してきました。自分がその病院の一員として質の高い医療を多くの方に提供する為に常に学ぶ姿勢や努力、高みを目指す精神を持続けたいと思います。社会人としての責任と自覚を持ち、研修で学んだことを大切にしながら充実した仕事をできるように日々励んでいきます。



リハビリテーション部 理学療法士
みさわ そうへい
三澤 颯輝

小笠原学長の講話の中で「医療人」としての自覚を持つことが重要であるとお話がありました。岩手医科大学職員の一員であることを強く感じると共に、患者さん、そのご家族に寄り添った行動を心がけたいと思います。理学療法士として、日々の自己研鑽を忘れず、分らない部分はそのままにせず、何事においても向上心を忘れずに日々励んでいきたいです。



研究助成課 事務員
ふくし らん
福士 藍

今回の研修を通し多くのことを考え、得ることができましたが、一番は職種を越えた連携についてです。私は事務員である為、直接医療に関わることはありませんが、医療人の育成と高度な研究を支えることで、組織の一員になれると強く感じ、奮起させられる3日間となりました。研修を終えた今、これからの社会人としての生活について、大きく前進していきたいと強く意欲を感じています。



手土産販売、始めます



岩手の定番菓子
かもめの玉子



3種類詰め合わせ
生地はフワフワ！
回進堂どら焼き



食べやすい一口サイズ
岩谷堂一口羊羹



かもめの玉子は
ミニサイズもご用意！



小岩井農牧のお洒落な洋菓子
フロランタン
グルメファンクッキー



その他の商品もございます
(今後商品の増加も検討中！)



学外訪問、学会出席等の際に
是非ご利用ください！

～ご注文の流れ～

①[手土産注文書]に必要事項を記入し弊社にご提出ください。

※受取り希望日は余裕をもって（原則5日程度）ご指定願います。

②商品の手配完了次第連絡いたしますので、手土産注文書に記載した受取り場所にて受取りをお願いいたします。

※手土産注文書は先般学内通知したもの、もしくはYショップに設置しているものをご利用ください。また、下記手順で大学HPからもご取得いただけます。

【学内限定情報→学内通知（事務局からのお知らせ）→関連団体】



学校法人 岩手医科大学 事業法人

株式会社 こすかたサービス

本学が省エネ法に基づく事業者クラス分け評価制度で5年連続 S クラスに評価されました。

本学は、省エネ法により一定規模以上（原油換算で 1,500 k l / 年以上）のエネルギーを使用する特定事業者に指定されており、エネルギーの使用状況などを報告（定期報告書）する義務のほか、使用するエネルギーを 5 年間平均で年 1 % 以上低減する努力義務が課せられています。

また、省エネ法には事業者クラス分け評価制度という制度があり、定期報告書により事業者の省エネの取組み状況を評価する制度で、省エネ優良事業者を公表することで事業者に自らの省エネ取組状況の客観的な認識を促すことを目的として実施されています。

事業者クラス分け評価制度の概要

Sクラス 省エネが優良な事業者 (目標達成事業者)	Aクラス 省エネの更なる努力が 期待される事業者 (目標未達成事業者)	Bクラス 省エネが停滞している事業者 (目標未達成事業者)
【水準】 ①努力目標達成※¹ または ②ベンチマーク目標達成※² 【対応】 優良事業者として、経産省 HP で事業者名や連続達成年数を表示。	【水準】 Bクラスよりは省エネ水準は高いが、Sクラスの水準には達しない事業者 【対応】 省エネ支援策等に関する情報をメールで発出し、努力目標達成を推進。	【水準】 ①努力目標未達成かつ直近2年連続で原単位が対前年度比増加※¹ または、 ②5年間平均原単位が5%超増加 【対応】 注意喚起文書を送付し、現地調査等を重点的に実施。
		Cクラス 注意を要する事業者 (目標未達成事業者) 【水準】 Bクラスの事業者の中で特に判断基準遵守状況が不十分 【対応】 省エネ法第6条に基づく指導を実施。

※¹ 努力目標：5年間平均原単位を年1%以上低減すること。

※² ベンチマーク目標：ベンチマーク制度の対象業種・分野において、事業者が中長期的に目指すべき水準

※³ 2019年度からは定期報告書、中長期計画書の提出遅延を行った事業者は、Sクラス事業の公表・優遇措置の対象外として取り扱うことがあります。

〈経済産業省 資源エネルギー庁ホームページから転載〉

この度、この評価制度において、職員の皆様方の多大なるご協力により本学は5年連続でSクラス（目標達成事業者）と評価されました。

Sクラスに評価された事業者は、省エネが優良な事業者として経済産業省のホームページで公表されるほか、提出義務である省エネ法に基づく定期報告の一部を省略することができます。

なお、特定事業者に指定されている大学は全国で305校あり、このうち当該制度で5年連続Sクラスに評価された大学は本学を含め75校でした。

岩手県内で5年連続でSクラスに評価された大学は本学のみとなります。

Sクラス公表 Web サイト（経済産業省 資源エネルギー庁ホームページ）

https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/enterprise/overview/institution/



昨夏のように高温が続くなど昨今は異常気象が頻発し、省エネ活動が難しい環境となってきましたが、出来る範囲で引き続き省エネ活動にご協力いただきますよう宜しくお願い致します。

永年勤続者表彰式が行われました

6月11日（火）、大堀記念講堂において、永年勤続表彰式が行われました。本年度の表彰者は勤続30年の方が32名（写真上段）、勤続20年の方が56名（写真下段）でした。式典では、祖父江理事長より勤続30年代表の口腔保健育成学講座歯科矯正学分野の佐藤教授と勤続20年代表の東8階A病棟の森岡主任看護師に表彰状と記念品が授与されました。これを受けて、MFICUの館林看護師長（勤続30年）が謝辞を述べ、式典終了後に壇上にて記念撮影を行いました。



勤続 30 年

青木 玲子
遠藤 友子
及川 栄子
大沼 和美

金澤 加津代
鎌田 聖子
嘉村 幸恵
桐内 美喜雄
久保田 好光

熊谷 佑子
金 由香
齋藤 恵津子
佐々木 敦
佐藤 和朗

佐藤 真由美
菅原 敦子
清野 留理子
平館 美紀
高原 美智子

館林 淑子
田向 信子
千田 里美
千葉 俊美
幅野 涉

藤野 靖久
藤原 友昭
細川 幸子
萬徳 孝子
宮 貴子

山岸 明枝
吉田 紀子
吉田 理恵
計 32 名
(所属・敬称略、五十音順)



勤続 20 年

阿部 智子
池野 彩
石川 明美
石川 恵子
内坪 寿真
大内田 志穂
小田 貴仁

小野 陽子
小野寺 未来
利部 正裕
鎌田 郁恵
川村 美香子
菊池 由香
喜古 有扶子
工藤 正樹

黒川 恵子
黒田 英克
小泉 妙子
小林 琢也
佐々木 隆任
澤口 歩美
鈴木 奈津子
駿河 幸治

關山 悦子
高田 由香
高橋 智子
田鎖 千春
武田 陽子
田島 吾郎
多田 恵
田中 さおり

田村 祐美
千葉 拓也
出口 博之
馬場 俊右
原 美代
平澤 暁子
廣瀬 清英
房崎 哲也

藤井 仁美
藤村 信宏
古内 高志
觸澤 優
北條 明紀
細矢 優子
堀合 久美子
松本 敦

三上 愛佳
民部田 佳子
村井 武志
森岡 文香
山根 由美子
吉田 圭佑
吉田 研二
吉田 玲香

吉野 直人
計 56 名
(所属・敬称略、五十音順)

岩手医科大学募金状況報告

本学の事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。
ご支援いただいた皆様のご協力に感謝の気持ちを込め、ここにご芳名を掲載いたします。
今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。
※ご芳名及び寄付金額は、掲載を承諾された方のみ紹介しています。

学術振興資金募金

第22回目のご芳名紹介です。(令和6年4月1日～令和6年5月31日)

■ 法人・団体等 (2件)

<28,000,000>

株式会社 こずかたサービス (岩手県紫波郡)

<1,000,000>

医療法人 弘生堂 (長野県上田市)

(順不同、敬称略)

■ 個人 (4件)

<100,000>

藤井 謙 (医27)

山本 彬 (医59)

<10,000>

河野 清彦 (医25)

<ご芳名のみ>

斎藤 和好 (役員)

(順不同、敬称略)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
主 陵 会	508	224,208,220
在学生ご父母	392	94,080,000
役員・名誉教授	51	54,780,000
教 職 員	47	7,460,000
一 般	27	488,073,572
法 人・団 体	310	212,505,481
合 計	1,335	1,081,107,273

(令和2年9月1日～令和6年5月31日現在)

理事会報告 (5月定例－5月27日開催)

1. 2023年度事業報告について

2. 2023年度決算及び監査報告について

3. 任期満了に伴う監事の選任について

監事 小野寺 正二 (新任)

(任期 2024年8月1日から2026年7月31日)

4. 教員の人事について

統合基礎講座薬理学講座病態制御学分野 教授

中村 正帆 (前 東北医科薬科大学医学部薬理学教室 准教授)

(発令年月日 2024年7月1日)

5. 医学部入学生定員等の臨時的な増加の取扱いについて

2025年度は地域の医師確保・診療科偏在対策等に有用な範囲に限り認める旨の通知があったことを受け、岩手県との協議の結果、引き続き地域枠での医師養成の要望があったことから、今年度と同様に岩手県地域枠として35名の臨時定員増を行う方針とすることを承認した。

6. 岩手医科大学大学院授業料減免規程の一部改正について

秋入学者に対応した文言の修正及び申請方法を変更することとし、岩手医科大学大学院授業料減免規程の一部を改正することを承認した。

(施行年月日 2024年6月1日)

理事会報告 (6月定例－6月24日開催)

1. 附属病院長の選任について

附属病院長 森野 禎浩 (新任)

(任期 2024年8月1日から2025年3月31日)

(前任者の残任期間)

2. 教員の人事について

医学部皮膚科学講座 准教授

渡部 大輔 (前 同講座 講師)

(発令年月日 2024年7月1日)

3. 理事の競業について

4. 令和7年度学納金等について

本学及び他大学の学費改定状況や入学志願者の動向等を考慮の上、検討した結果、各学部いずれも据置きとすることを承認した。

5. 歯学部・薬学部の特待生規程及び同窓生減免規程の制定について

歯学部及び薬学部の定員充足率向上に対応する施策として、特待生規程については、歯学部及び薬学部入学試験合格者の内、極めて優秀な成績を有する者に対し、学納金の一部を減免する特待生制度を設け、歯学部においては地域医療の貢献に資する人材の育成を、薬学部においては同学部の発展に資することを目的と

すること、また、同窓生減免規程については、本学同窓会(主陵会)正会員の親族が歯学部及び薬学部に入学会した場合の学納金を減免し、学費負担者の経済的負担の軽減を図ることを目的に、それぞれ制定することを承認した。

(制定年月日 2024年6月24日、

施行年月日 2024年11月1日)

6. 大学病院改革プランについて

3月に文部科学省にて策定された大学病院改革ガイドラインに基づく、本学附属病院改革プランを承認した。

7. 附属病院規程の一部改正について

6月の診療報酬改定に伴い、小児緩和ケア診療加算算定のため「小児緩和ケアチーム室」を、入院基本料の施設基準に要件化された身体的拘束最小化の基準により「身体的拘束最小化チーム室」をそれぞれ病院内に設置することとし、附属病院規程の一部を改正することを承認した。

(施行年月日 2024年6月24日、

適用年月日 2024年6月1日)

岩手医科大学報編集委員

祖父江 憲治	畠山 正充
影山 雄太	藤村 尚子
松政 正俊	高橋 慶
齋野 朝幸	阿部 俊
藤本 康之	杉下 佳子
白石 博久	石森 由樹
佐藤 泰生	菊池 いな子
佐藤 仁	最上 玲子
藤澤 美穂	高橋 淳美
塩山 亜紀	阿部 祥子
細田 留美子	

編集 後記

大学報7月号を最後までお読みくださりありがとうございます。

8月に入ると夏休みシーズン真っ盛りで、夏祭りや花火大会など屋外で楽しむ催しが各地で予定されていて、参加してみようか迷いますね。皆様は夏のご予定もう立てられましたか？ 昨年の盛岡の夏は、30度を超えた真夏日が30日間で記録的暑さでした。

皆様、まだまだ気が許せない暑い日々が続いていますが、しっかり食べ、睡眠もたくさんとって夏バテや熱中症に気を付けながら楽しい夏を乗り切っていきましょう。

(編集委員 石森 由樹)

岩手医科大学報 第554号

発行年月日／令和6年7月31日

発行／学校法人岩手医科大学

編集委員長／祖父江 憲治

編集／岩手医科大学報編集委員会

事務局／総務部 総務課

TEL. 019-651-5111 (内線5452、5453)

FAX. 019-907-2448

E-mail: kouhou@j.iwate-med.ac.jp

印刷／河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp



あなたの唾液は大丈夫？

むし歯の原因

皆さんは、どんな歯磨きをしていますか？歯磨きの回数、使用している口腔ケア用品は、人それぞれ違うと思います。回数が多い、多くのケア用品を使っている人ほど、むし歯になりにくいでしょうか？私の患者さんで、90歳で歯が23本残存している方がいますが、その方は、今ではあまり見ることない豚毛歯ブラシ1本で1日1回歯を磨くだけです。正直、あまり歯磨きは上手とは言えません。でも10年以上診ていますが、むし歯の治療は数える程度です。なぜむし歯が頻発しないのでしょうか？その理由は、宿主要因のひとつ『唾液』です。

唾液の役割

むし歯は、宿主、微生物、食事、生活環境などの多因子による感染性疾患です。健康な成人は、1日で1.0～1.5リットルの唾液が分泌されます。唾液の役割は、大きく分けると①口腔内を守る緩衝作用、②食事をサポートする食塊形成・消化作用、③微生物に対する抗菌作用があります。そのため、唾液量が少ない方は、むし歯ができやすいだけでなく、粘膜の微小外傷、嚥下障害、味覚障害など様々な問題が生じます。また緩衝能（唾液が酸を中和する力）がどれくらいあるか、というのが重要です。右の図は、矯正治療開始前の患者さんの写真です。とてもきれいに磨いて、むし歯のリスクは少なく、すぐに矯正治療をはじめても問題ないように見えますね。でも緩衝能試験（CAT21）を行ってみると、緩衝能が低く危険域（++）という結果でした。このまま何もせず、矯正治療をはじめていたら、むし歯ができてしまったかもしれません。緩衝能は、正しいブラッシング、歯科衛生士によるPMTCの他、食生活の改善（規則的な食事、咀嚼による唾液分泌量促進、酸性化食品の回避など）によって約1か月程度で改善することができます。

初診時口腔内

初診時の緩衝能検査結果
危険域（++）

最後に

皆さんの中で、「口が渇く」、「歯磨きしていても、むし歯ができやすい」と思ったら、唾液の検査をしてみてはどうでしょうか？総合歯科Bでは『う蝕管理プログラム（※自費治療）』を提供しております。ご興味のある方は、お気軽にご相談ください。